

第三セクターの経営情報について（皿倉登山鉄道株式会社）

1 会社概要

(1) 事業内容

- ①鋼索鉄道（ケーブルカーの運行）
- ②その他事業（スロープカーの運行、展望台の管理運営）

(2) 会社設立及び本市の出資額・割合・従業員数

会社設立 昭和 32 年 3 月 1 日

資本金 10,000 千円（本市出資金 10,000 千円 出資率 100%）

2 事業報告等

第 70 期		令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日		
事業報告		1 施設利用者数 ・ケーブルカー：388,975 人（前年度比 97,856 人増） ・スロープカー：356,148 人（前年度比 92,213 人増）		
		2 集客対策等 ・「北九州周遊パス」など観光・集客事業への参加 ・昇降機の更新等施設・周辺環境の整備 ・多言語・キャッシュレス対応の自動券売機の導入 ・お土産販売コーナーの開設		
		3 運輸安全マネジメント ・運休日の一斉保守や定期検査・オーバーホール実施 ・電気設備の「予防保全」 ・災害等による運休情報を HP や SNS 等で迅速に発信		
収支状況	当期純利益	36,139 千円		
	前年度との比較		第 69 期 R6.4.1～R7.3.31	第 70 期 R7.4.1～R8.3.31
		営業収益	194,043 千円	233,844 千円
		営業費用	166,453 千円	185,539 千円
		経常利益	29,217 千円	50,759 千円
		当期純利益	18,984 千円	36,139 千円
繰越利益剰余金		148,245 千円		
株主総会	監査報告	監査役 2 名が監査を実施した結果、適法かつ正確であった。		
	議案	令和 8 年 6 月 26 日に第 70 期定時株主総会が開催され、以下の議案が原案どおり承認、可決された。 (1)決議事項 ・第 1 号議案 第 70 期事業報告、計算書類等承認の件 ・第 2 号議案 剰余金の処分の件 ・第 3 号議案 定款の一部改正の件 ・第 4 号議案 取締役の任期満了に伴う選任の件 ・第 5 号議案 監査役の報酬改定の件 (2)報告事項 ・令和 7 年度皿倉登山鉄道株式会社事業概要報告の件		

（令和 8 年 3 月 31 日現在）

皿倉登山鉄道株式会社
令和 7 年度 経営状況報告

令和 8 年 8 月 6 日
都市ブランド創造局

事業報告

（ 自 令和7年 4月 1日
至 令和8年 3月31日 ）

1 会社の現況に関する事項

（1）事業の経過

① 運行日数

令和7年度の運行日数は298日で、計画日数302日に対する運行率は98.7%と前年度比3.3ポイント上昇して、ほぼ計画どおりの運行を実施することができました。

これは、車両故障や大雨警報による臨時運休日が4日あったものの、臨時運休日が前年度に比べ10日少なかったことによります。

（説明） 計画運休日は63日で、定期運休日（原則火曜日）、定期検査運休日（6月2日～6日）及び車両設備等オーバーホールに伴う運休日（2月16日～27日）による。

② 観光・集客事業への参加

令和7年度に取組んだ主な観光施策事業などは次のとおりです。

ア. 「北九州周遊パス」（一般社団法人九州観光機構） 《新規》

- ・ 令和7年7月23日～
- ・ JR 鹿児島線（門司港駅～八幡駅）乗り放題、対象施設入り放題の電子チケット（1日券2,000円、2日券3,000円）

イ. 「KitaQ おもてなしキャンペーン」（市観光課） 《継続》

- ・ 令和7年10月11日～12月25日
- ・ TGC北九州や北九州国際音楽祭など対象イベント参加者に「観光サービスSTLOCAL」アプリから電子クーポンを配布（大人200円引き、小人90円引き）

ウ. デジタル駅スタンプ「エキタグ」（㈱ジェイアール東日本企画） 《継続》

- ・ NFC タグをスマートフォンで読み込むことで、駅ごとに異なるデザインの「デジタル駅スタンプ」を取得することができるサービス

エ. その他 《継続》

ケーブルカー・スロープカー往復通し券割引（大人200円引、小人90円引）の適用

事業	日程
九州パパママウォーカー・割引クーポン	6月 1日～ 3月31日
こども文化パスポート（市教育委員会）	7月18日～ 8月31日
お楽しみ体験参加事業（市教職員互助会）	7月19日～10月31日
皿倉山健康ウォーク（市八幡東区役所）	5月11日～12月31日

③ 無料シャトルバス利用者の利便性向上

シャトルバス利用者の増加を受け、冬期（１１月～３月）の平日において、八幡駅始発便の発車時刻を２０分繰り上げて（１７時０５分発→１６時４５分）運行しました。

また、ＪＲ九州の許可を受け、八幡駅構内にシャトルバス専用バス停を新設して、１月５日から運用を開始しました。

④ 施設・周辺環境の整備

訪れる人の満足度向上に向けた施設環境の整備として、

ア．市観光課において、老朽化により稼働を停止していた山麓駅の階段昇降機（車椅子利用者等が使用）を更新し、１０月から再稼働しました。

また、山上駅の階段昇降機についても３月に更新しました。

イ．市観光課において、老朽化していた展望台施設のエレベーターを２月に改修しました。

ウ．市都市整備局において、皿倉山リニューアル計画によって、４月に山頂斜面地の「絶景の遊び場」（ブランコ、すべり台、スタンドベンチ）を新設しました。

⑤ その他

ア．携帯アプリでケーブルカー・スロープカー往復乗車券が購入・決済できるゼンリンアプリ「STLOCAL」を１０月から導入しました。

イ．増加する外国人観光客への対応として、９月にケーブルカー上り・下り乗車時アナウンスを多言語に、２月に山麓駅の自動券売機を多言語・キャッシュレス機能付きに更新しました。

ウ．山上駅耐震補強等工事で一時撤去したケーブルカー神社を再設置するとともに、５月から御朱印状の販売を開始しました。

エ．展望台レストラン「天宮」が、市観光課と協働で、「皿倉山展望台お土産販売コーナー」を１月に開店し、オリジナル商品やケーブルカーグッズなどの販売を開始しました。

オ．西鉄バス北九州が、小倉駅新幹線口⇄高速皿倉山ケーブル間の有料直行バス（都市高速道路経由）を前年度に引き続き運行（４月～１０月は往復２便、１１月～３月は往復１便）しました。

(2) 当期決算収支

① 輸送人員

北九州市の「日本新三大夜景都市」第1位認定の効果や、外国人観光客が引き続き増加したことなどにより、ケーブルカーとスロープカーの合計輸送人員は、745,123人で、前期比190,069人増(34.2%増)となり、大幅に増加しました。

また、ケーブルカーは平成13年の車両リニューアル以来、スロープカーは平成19年の開業以来、いずれも過去最高を更新しました。

(輸送人員対比表)

(単位:人)

区 分	令和7年度	令和6年度	対前期増減	前期比(%)
ケーブルカー	388,975	291,119	97,856	133.6
スロープカー	356,148	263,935	92,213	134.9
計	745,123	555,054	190,069	134.2

注) 輸送人員は、往復乗車の場合は上り1人、下り1人で計上。

② 運輸収入

ケーブルカーとスロープカーを合わせた運輸収入は1億9,508万円で、前期比5,150万円増(35.8%増)と輸送人員と同じく大きく伸び、過去最高になりました。

ケーブルカー及びスロープカーいずれの運輸収入も過去最高を更新しました。

(運輸収入対比表)

(単位:

千円 端数切捨て)

区 分	令和7年度	令和6年度	対前期増減	前期比(%)
ケーブルカー	129,528	95,306	34,221	135.9
スロープカー	65,551	48,265	17,286	135.8
計	195,080	143,572	51,508	135.8

③ 営業損益

営業収益は2億3,384万円(前期比3,980万円増)、営業費は1億8,553万円(前期比1,908万円増)で、営業利益は4,830万円(前期比2,071万円増)となり、過去最高になりました。

④ 経常損益

雑収入や受取利息など営業外収益は257万円、支払利息など営業外費用は11万円で、営業外利益は245万円となり、営業利益に営業外利益を加えた経常利益は5,075万円(前期比2,154万円増)となっています。

⑤ 当期純損益

経常利益に特別利益(償却資産の売却)を加え、特別損失(償却資産の除却)や法人税等を差し引いた当期純利益は3,613万円(前期比1,715万円増)となり、過去最高になりました。

これにより、利益剰余金の累計額は、1億4,824万円になっています。

(損益計算対比表)

(単位:千円、端数切捨て)

区 分		令和7年度	令和6年度	対前期増減	前期比(%)
	営業収益	233,844	194,043	39,800	120.5
	営 業 費	185,539	166,453	19,086	111.5
営業損益		48,304	27,590	20,714	175.1
	営業外収益	2,573	1,772	801	145.2
	営業外費用	118	144	△ 25	82.1
営業外損益		2,454	1,627	827	150.8
経常損益		50,759	29,217	21,541	173.7
特別利益		65	—	65	—
特別損失		23	557	△ 534	4.2
税引前当期純利益		50,802	28,659	22,142	177.3
法人税等		14,662	9,675	4,987	151.6
当期純損益		36,139	18,984	17,154	190.4

(3) 設備投資等の状況

令和7年度に購入・整備した設備等（固定資産）は、次のとおりです。

営業利益の好調な進捗を踏まえ、老朽化していた設備や備品の更新を積極的に進めて、総額2,763万円（前年度比2,665万円増）の設備投資を行いました。

【建物附属設備】

階段昇降機（山上駅） 12,774 千円

【構築物】

ケーブルカー神社神殿 648 千円 シャトルバス 八幡駅バス停 466 千円

【器具及び備品】

スポットクーラー（山麓駅） 333 千円 スポットクーラー（山上駅） 179 千円

ｽﾛｰﾌﾟｶｰ 案内放送設備 470 千円 ｽﾛｰﾌﾟｶｰ 車内 BGM アンプ 229 千円

自動券売機（山麓駅） 2,900 千円 自動券売機（山上駅） 930 千円

POS レジスター（山麓駅） 873 千円 ケーブルカー軌道監視カメラ システム 4,874 千円

選別音声呼出電話器(6 台) 557 千円 事務用パソコン(9 台) 1,691 千円

背負い式ブロワ 109 千円

【ソフトウェア】

勤怠管理ソフトウェア 630 千円

(4) 財産及び損益の状況の推移

（単位：千円、端数切捨て）

項 目 期 別	第 67 期	第 68 期	第 69 期	第 70 期
	（ 自 R 4 年 4 月 1 日 至 R 5 年 3 月 3 1 日 ）	（ 自 R 5 年 4 月 1 日 至 R 6 年 3 月 3 1 日 ）	（ 自 R 6 年 4 月 1 日 至 R 7 年 3 月 3 1 日 ）	（ 自 R 7 年 4 月 1 日 至 R 8 年 3 月 3 1 日 ）
営 業 収 益	190,315	174,186	194,043	233,844
鋼索鉄道事業	133,989	121,412	129,315	150,400
そ の 他 事 業	56,325	52,773	64,728	83,443
営 業 利 益	12,100	112	27,590	48,304
経 常 利 益	13,694	1,537	29,217	50,759
当 期 純 利 益	10,997	1,278	18,984	36,139
1 株当たり当期純利益	3 円 27 銭	38 銭	5 円 64 銭	10 円 74 銭
総 資 産	179,844	165,195	204,662	246,884
純 資 産	101,842	103,121	122,106	158,245

（５）集客及び賑わい振興

① イベントの開催

恒例のライブイベントとして、GWスペシャルライブ（５月、３日間）、サタデーナイトライブ（９月、４日間）、中秋のお月見会（１０月、１日）、Xmas ナイトライブ（１２月、２日間）、バレンタインライブ（２月、１日）を開催しました。

その他、天体観測会（９月、１日）や星空ビアガーデン（７月１２日～９月２９日）の開催、初日の出運行（１月１日）、バレンタイン大作戦（２月１１日～１４日）を実施しました。

「星空ビアガーデン」では１，６７３人、「初日の出運行」では１，５０６人、「バレンタイン大作戦」では７１０人の集客につなげました。

② おもてなし向上

オリジナルのお土産品として、御朱印状（通年版、季節限定版）、手ぬぐい（夜景）、エコバック、缶マグネット及びマグカップの販売を開始しました。

また、季節のおもてなしとして、「皿倉山七夕かざり」（７月２日～８月７日）、「紅葉時ケーブルカー沿線ライトアップ」（１１月１４日～１２月２５日）「クリスマスイルミネーション」（１１月２６日～１２月２５日）を行いました。

③ 地域振興への貢献

「まつり起業祭八幡」や「わっしょい百万夏まつり」などの市内イベント、「八幡商店組合連合会年末売出し」や「前田さくらまつり」などの地域行事に協賛するとともに、まつり起業祭八幡（１１月８日～９日）ではPRブースを出展するなど地域振興にも貢献しています。

④ 外国人観光客への対応

令和７年度の外国人観光客の団体利用は、２５７団体、６，４１３人で、前期比で団体数は４１％、利用者数は４３％増加しました。国別では、台湾（７３％）及び韓国（１６％）が大半を占めています。

急増する外国人観光客に対応するため、これまでの案内表示の多言語化などに加え、ケーブルカー上り・下り乗車時アナウンスの多言語化や、多言語表示でキャッシュレス機能のある乗車券売機の導入などを進めました。（再掲）

また、韓国旅行会社との交流会（清州^{チョンジュ}－北九州新規路線就航）に出席するなど誘致拡大にも努めています。

(6) 運輸安全マネジメント

乗客の安全運行を最大の使命として、日常の車両・運転施設の点検や整備はもとより、定期運休日（火曜日）の一斉保守作業、定期検査（6月）や車両設備等のオーバーホール（2月）によって、老朽化する車両設備機器のメンテナンスを適切に実施しました。

また、ケーブルカーの電気設備の保全は、メーカー推奨耐用年数を基準とした「予防保全」を行うことで、車両トラブルの防止や車両の長寿命化にも努めています。

こうした取組みによって、車両故障による運休日（5月26日）があったものの、大きな事故はなく安全運行を確保できました。

自然災害等による運休などについては、ホームページや SNS などでも速やかな情報発信に努めています。

(7) 人材確保・育成

従業員の構成は、期末において常勤嘱託員10名、非常勤嘱託員36名となっており、正規社員はいません。

常勤嘱託員の平均年齢は49歳（最少19歳、最高63歳）、平均勤続年数は7年（最長23年、最短5か月）となっています。

例年の課題であった運輸課常勤嘱託員（車両の運転・保守管理）の欠員は、若年者（19歳、24歳）の採用により補充できました。

これに伴う給与上の措置として、給料表の間差額の見直し、職務訓練手当（給料月額5%～1%）の新設など若年層の勤務条件の改善を図り、嘱託員全体としても給与・賃金の6%引上げを実施することとしています。

今後とも安定した経営を前提としつつも、専門能力の蓄積や地元人材の活躍が図れるよう引き続き人材の確保・育成に努めていきます。

(8) 経営改善等の経過 【参 考】

平成22年度に策定した「経営改善計画」に基づき、平成23年度に市出資金の減資によって16億円を超える累積損失を解消するとともに、減価償却費や維持管理費等の軽減のため、ケーブルカー等施設設備の事業資産を市へ無償譲渡しました。

資産譲渡に伴う減損処理により発生した欠損金（6,300万円）は、上下分離の事業運営（市から車両等を借受けて運営）に加え、営業強化や人件費削減などにより、安定して当期純利益を計上したことで、平成27年度末に解消しています。

平成28年度以降も北九州市の日本新三大夜景都市認定やインバウンド客の増加が追い風となり、コロナ禍を除いて好調な経営を継続して、令和7年度末の利益剰余金は1億4,824万円にまで増加しています。

2 会社概要

(1) 主要な事業内容

- ・鋼索鉄道事業 ケーブルカーの運行
- ・その他事業 スロープカーの運行、展望台の管理

(2) 事業所の状況

主要な事業所

本社 北九州市八幡東区大字尾倉 1481-1

(3) 従業員の状況（令和8年3月31日現在）

従業員数		前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
男性	8名	+3名	48歳05月	4年06月
女性	2名	±0名	52歳05月	16年11月
計又は平均	10名	+3名	49歳03月	7年00月

(注) 上記従業員は常勤嘱託員であり、このほか時間給非常勤嘱託員36名を雇用しています。

(4) 借入金の状況

(単位：千円)

区分	借入残高	借入先
短期借入金	—	—
長期借入金	20,600	北九州市

(注) 当事業年度の所用資金は自己資金を充当しており、新たな運転資金の調達は行っていません。

3 株式に関する事項

(1) 発行済株式の総数 3,366,000 株

(2) 株主数 1 名

(3) 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
北九州市	3,366,000 株	100 %

(4) 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 会社役員に関する事項

(1) 取締役及び監査役

(令和8年3月31日現在)

地 位	氏 名	他の法人等の代表状況等
代 表 取 締 役	福 本 啓 二	
取 締 役	小 杉 繁 樹	北九州市政策局長
取 締 役	武 田 信 一	北九州市財政・変革局長
取 締 役	森 川 洋 一	北九州市都市ブランド創造局にぎわい担当理事
取 締 役	持 山 泰 生	北九州市都市整備局長
取 締 役	喜 洲 淳 哉	北九州市八幡東区長
監 査 役	小 島 庸 匡	公認会計士
監 査 役	井 上 美 紀	北九州市都市ブランド創造局観光にぎわい部長

(注)

1. 取締役は全員、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。
2. 監査役は全員、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。
3. 監査役 小島庸匡氏は、公認会計士の資格を有し、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものです。
監査役 井上美紀氏は、北九州部長級職員の経験を有し、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものです。
4. 当期中の取締役、監査役の異動は、以下のとおりです。
(令和7年4月1日就任・第123回臨時株主総会)
取締役 小杉繁樹、持山泰生
監査役 井上美紀
(令和7年6月30日就任・第69期定時株主総会)
取締役 森川洋一
5. 令和8年4月1日(第124回臨時株主総会)就任予定の取締役は、次のとおりです。
取締役 遠坂佳将(北九州市政策局長) 南 孝昌(北九州市都市整備局長)
大庭千枝(北九州市八幡東区長)

(2) 取締役及び監査役ごとの報酬額の総額

取締役 1名 6,510千円

監査役 1名 30千円

5 会社の体制及び方針

当社は、「内部統制基本方針」に基づき、適切な職務執行を行っています。

(1) 取締役・社員の職務執行が法令・定款に適合することを確保するための体制

コンプライアンス体制に関する規程を、役職員が法令・定款及び社会規範を遵守した行動をとるための行動規範とする。また、その徹底を図るため、総務営業課においてコンプライアンスの取り組みを横断的に総括することとし、同課を中心に役職員教育等を行う。

(2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する事項

取締役の職務の執行に係る情報を文書又は電磁的媒体に記録し、保存する。取締役及び監査役は、常時これらの文書等を閲覧できるものとする。

(3) 損失の危険の管理に関する規定その他の体制

コンプライアンス、災害等に係るリスク等について、組織横断的リスク状況の監視及び全社的対応は総務営業課が行い、各課所管業務に付随するリスク管理（規則、ガイドラインの制定、研修の実施等）は各課が行うこととする。

(4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

社内規則の規定に基づく職務権限及び意思決定ルールにより、適正かつ効率的に職務の執行が行われる体制をとることとする。

(5) 会社における業務の適正を確保するための体制

事業ごとに責任者を定め、法令遵守体制及びリスク管理体制を構築する権限と責任を付与することとする。また、総務営業課はこれらを横断的に推進し、管理するものとする。